

みんなの思いが詰まったテラスとステージ

えだきん×夢叶きやらばん

ゆめかな



テラスでは、かき氷の早食い競争など様々なイベントが行われてきた

商店街の中心にあるパン屋「パ리지エヌ」前には、約20年前に地域交流の場としてテラスが設置され、子どもから高齢者まで多世代が集う場となっていました。

今回のプロジェクトの代表上野さんは、20年前にえだきん商店街と出会ってから長年お祭りやイベントを手伝い、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」をモットーに、エンタメ制作や高齢者のデジタル支援など、幅広く活動してきました。

2022（令和4）年には、「引きこもりがちな中高生や高齢者が、外とのつながりを持てるきっかけとして、バーチャルとリアルをつなぐ場を作りたい」と考え、まち普請に挑戦するも、「バーチャルな場」への理解を得ることが難しく、一次コンテストで敗退してしまいました。

しかし、翌年、「青空テラス」や「ステージ」など、リアルな場を整備する方向へと転換し、まち普請に再挑戦。コンテストでは、子どもたちが「自分たちにとって大切な場所だから、改修が必要」と熱い思いを訴え、見事通過することができました。



テラス解体後、みんなでお掃除

今にも床が抜けそうだったり、テーブルは反り返り、椅子が壊れていたりとかなり老朽化していたテラスは、地域の人たちが協力して解体。そこで出た木材は、テラスの机や椅子へと生まれ変わりました。

また、年季が入ったシャッターも、水でっぽうを使ったイベント仕立てで、子どもたちも参加して楽しくお掃

除し、とても綺麗になりました。最後はプロの手も借りて、パ리지エヌ前に、素敵なテラスとステージ「パarih横テラス」が完成しました。

2025（令和7）年1月には完成イベントを実施。ステージでは、子どもたちの歌やダンスが披露され、みんなで完成を祝いました。



テラスで行われているスマホ教室

テラスは、現在、高齢者のスマホ教室や屋台食堂など、多世代が集う場として活用されています。

上野さんは言います。「孤独・孤食・孤立をなくしたいと、定期的に、屋台食堂を開催しています。小中学生やシ

「えだきん商店街」は青葉区、緑区に隣接する都筑区在田南にある、区内で最も歴史のある商店街です。最寄り駅からは徒歩約20分と少し距離がありますが、緑豊かな歩行者専用道路沿いにあり、四季折々の花が咲き誇る地域に愛されている場所です。

シングル世帯、65歳以上の単身世帯の方や、テラス前のごみ拾いなどお手伝いしてくれた方も無料で食事を楽しめます。みんなで食べるおいしいをぜひ実感してください」。

屋台食堂は屋外ですが、暑くても寒くても、子どもから高齢者まで沢山の人が集まっています。



完成イベントでのステージ

ダンサーで「夢かなえ隊」を結成し、披露イベントも行いました。このように、定期的に活用することで、「テラスとステージで、こんなことができるんだ」と知られるようになりました。

パリエンヌの店主児玉さんは「テラスがきれいになった当初は、使っているのかななんてみんな遠慮して

たんですが、今は、犬の散歩にきた人が休憩していたり、放課後の子どもたちが集まってゲームをしていたり、高齢者がおしゃべりしていたりと地域に愛される場になっていきます。また、コンセントが付いているので、商店街のお祭りの時にも役立つと思います。これからも、この場をきっかけに、色々な人のつながりが自然に生まれると思います。」と話しています。

また、ステージでは、中学生や子育て世代がダンスや歌を発表を行うなど、誰もが挑戦し発表できる場として折々に利用されています。えだきんのゆるキャラ（えだきんぎょ）とキッズ

上野さんは「まち普請は本当に大変でした。やめてしまおうと思ったことも何度もありました。でも地域の人に愛されているこの場を守り、綺麗にしたいという一心で持ちこたえまし

た。」と振り返ります。
みんなの思いが詰まったテラスとステージは、地域の人たちが協力して掃除や運営を続けており、新たな核として、つながりを生み出す場になっています。



解体した木材を使って椅子を製作



古くなったシャッターをイベント仕立てで楽しくお掃除



整備主体…えだきん×夢叶きやらばん
整備場所…都筑区在田南5丁目7番3号
整備内容…ウッドデッキ、テーブル・椅子、ステージ等
竣工時期…令和7年1月

リアルとバーチャルで夢を応援
えだきんメタワールド（都筑区）



にぎわう屋台食堂